簡易レポート作成プログラム

(SAT Report 2003)

取 扱 説 明 書

注 意

・製品を使用する前に必ず本書をお読みください。

・本書は製品と共に、大切に保管してください。

ＮＥＣ三栄株式会社

95691-2350-0000
Rep-Rev2

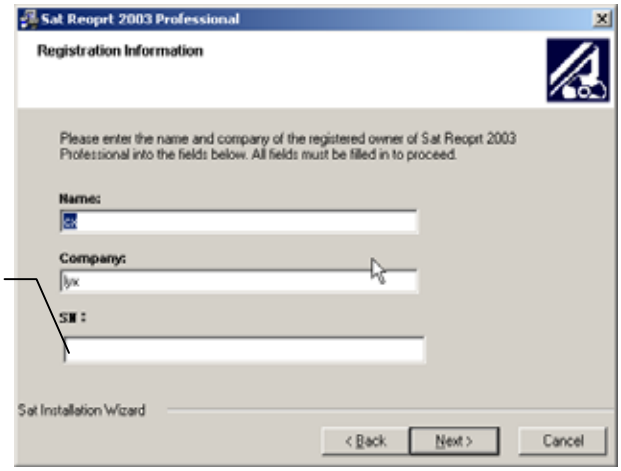
目次

第1章　はじめに……1
第2章　ソフトウェアの操作……1
第3章　レポートの作成……2
第4章　詳しい操作説明……7
第5章　仕様……25
第6章　その他……26
第7章　お問い合わせ先……26

第 1 章　ソフトウェアのインストール

1. インストールファイル (SRS160EnStd.exe) をダブルクリックすると、ソフトウェアが自動的にインストールを開始します。そこで、[Next] をクリックしてください。
2. 次に、Sat Ir のダイアログで、[Next] をクリックしてください。
3. ユーザー名、会社名、シリアルナンバーなどのユーザー情報を入力してください。シリアルナンバーは、TH6200 本体側面のナンバーを入力してください。続けて、[次に] をクリックしてください。

TH6200 本体のシリアルナンバーを入力してください。



4. ユーザー情報を確認し、[次に] をクリックしてインストールを続けてください。
5. インストール先の設定
   デフォルトインストールとカスタマイズインストールの 2 つの選択技があります。初期設定のままでよろしければ、[次に] をクリックして続けてください。インストール先のパスをユーザーご自身で設定する場合は、「Brose」ボタンにから変更できます。

第 2 章　ソフトウェアの操作

1. ウィンドウズデスクトップ左下の [スタート] ボタンをクリックし、スタートメニューを開いてください。
2. [プログラム (P)] にマウスを移動してクリックし、「SAT Report Standard」の「Sat Report」を選択してプログラムを実行してください。
3. 図 2-1 のような、起動画面が表示されます。

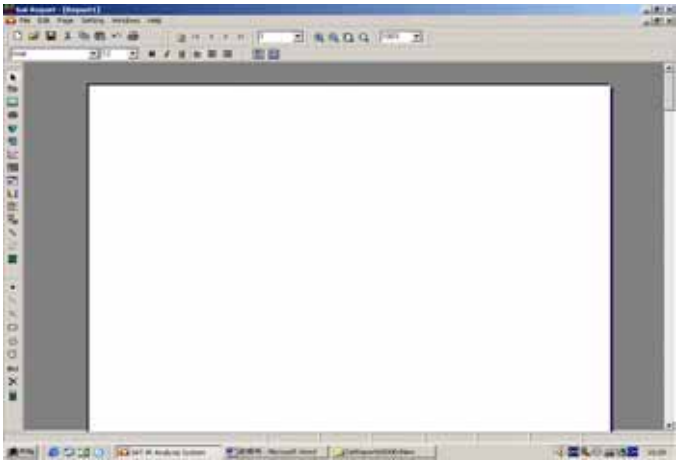


図 2-1

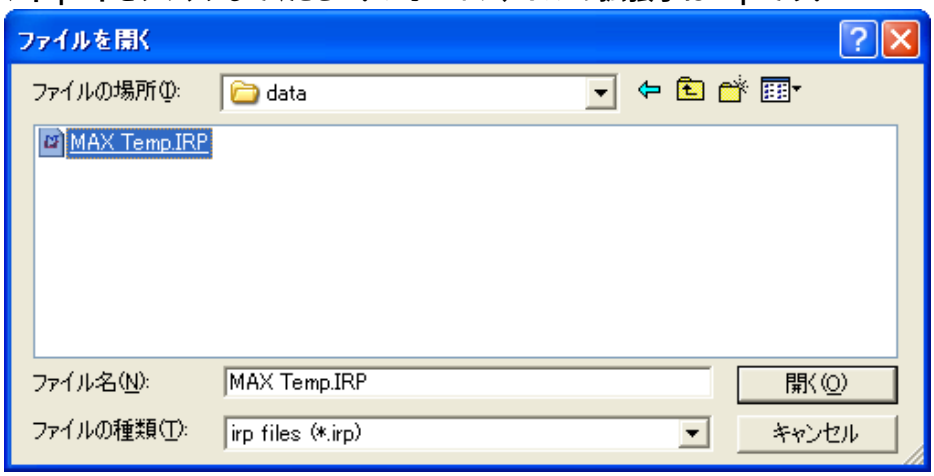
第 3 章　レポートの作成

1. 新規レポートの作成

起動すると、このソフトウェアは自動的に新規レポートを作成します。ツールバーの アイコンをクリックするか、ファイルメニューの [New] バーを選択してレポートを作成できます。後述の高品位で高精度なレポートジェネレータのテンプレートを使用し、素早くレポートを作成できます。

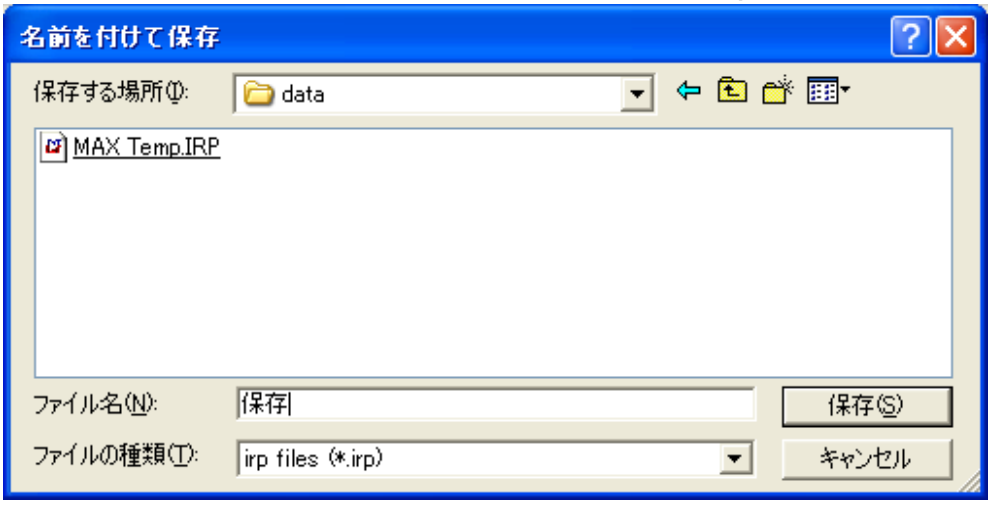
2. 保存レポートを開く

保存したレポートを修正または読み込む必要がある場合は、ツールバーの [Open] アイコンをクリックするか、または、メニューの [File／Open] でファイルを開くことができます。メニューから開く場合、標準ウィンドウズダイアログボックスが表示されるので、ユーザーはパスを変更し、ファイルを選択し、[Open] をクリックしてください。レポートファイルの拡張子は. irp です。

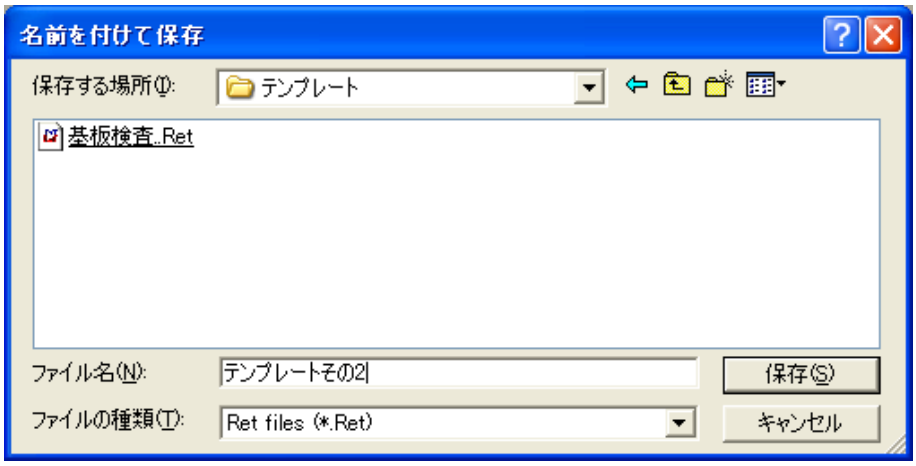


3. レポートの保存

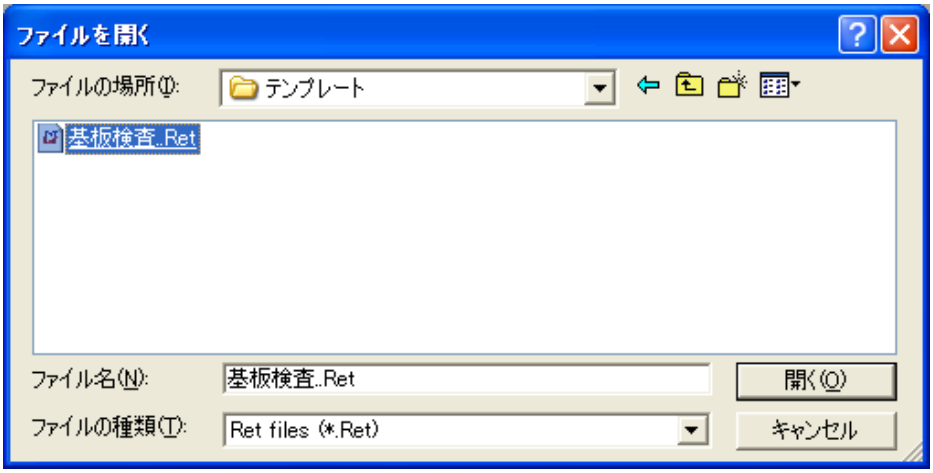
新規作成したレポートまたは修正したレポートを保存するには、ツールバーの アイコンをクリックするか、または、[File | Save] をクリックすると、標準ウィンドウズの [Save] ダイアログボックスが表示され、保存できます。保存するパスを変更し、保存ファイル名を入力し、[Save] ボタンをクリックしてください。レポートファイルの拡張子は、下図に示すとおり、.irp です。



4. レポートに名前を付けて保存
   オリジナルファイル名を使用しない場合は、別ファイルとして保存できます。メニューの [File | Save As] をクリックすると、標準ウィンドウズの [名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。保存するパスを変更し、ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。新しいファイル名が既存のファイル名と同じ場合には警告がでます。レポートファイルの拡張子は、.irp です。
5. テンプレート名を付けて保存、テンプレートを開く
   このソフトウェアは、同じタイプまたは似た内容のレポートを保存するために、あらゆるレポートをテンプレートとして保存することができます。そのため、ユーザーは既存のテンプレートを修正するだけで新しいレポートを作成でき、効率が大幅に改善されます。手順は以下のとおりです。[File | Save As Template] をクリックすると、標準ウィンドウズの [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。保存するパスを選択し、ファイル名を入力し、[名前を付けて保存] ボタンをクリックします。新しいファイル名が既存のファイル名と同じ場合は、警告がでます。レポートファイルの拡張子は、.Ret です。



テンプレートを開くには、[File | Open Template] をクリックし、標準ウィンドウズの [ファイル選択] ダイアログボックスを表示します。テンプレートファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。

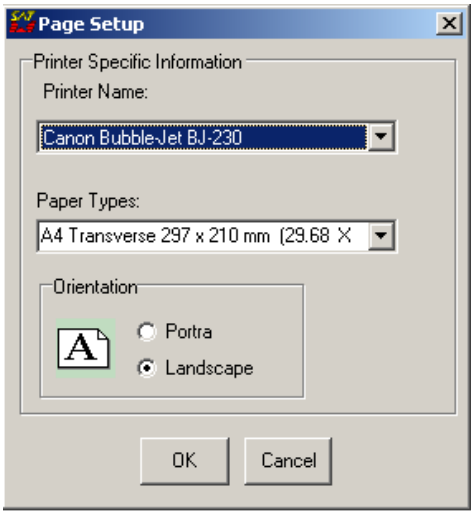


6. WORD ファイルとして保存 (コンバート機能)

このソフトウェアでは、レポートを MS-WORD ファイル形式として保存することができます。[File | Save As Word Doc] をクリックすると、標準ウィンドウズの [ファイル名を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。保存するパスを選択し、ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。保存を開始した後、以下のダイアログが表示されますので、保存ファイルを開く場合は「はい」を、開かない場合は「いいえ」をクリックしてください。

7. ページ設定

ページサイズを様々な用紙サイズに変更することができます。[File | Page Setup] メニューを選択すると、下図に示す [Page Setup] ウィンドウが表示されます。対応するプリンタ、用紙タイプ、配置、を選択し、[OK] ボタンをクリックして設定を終了します。



8. レポートの印刷

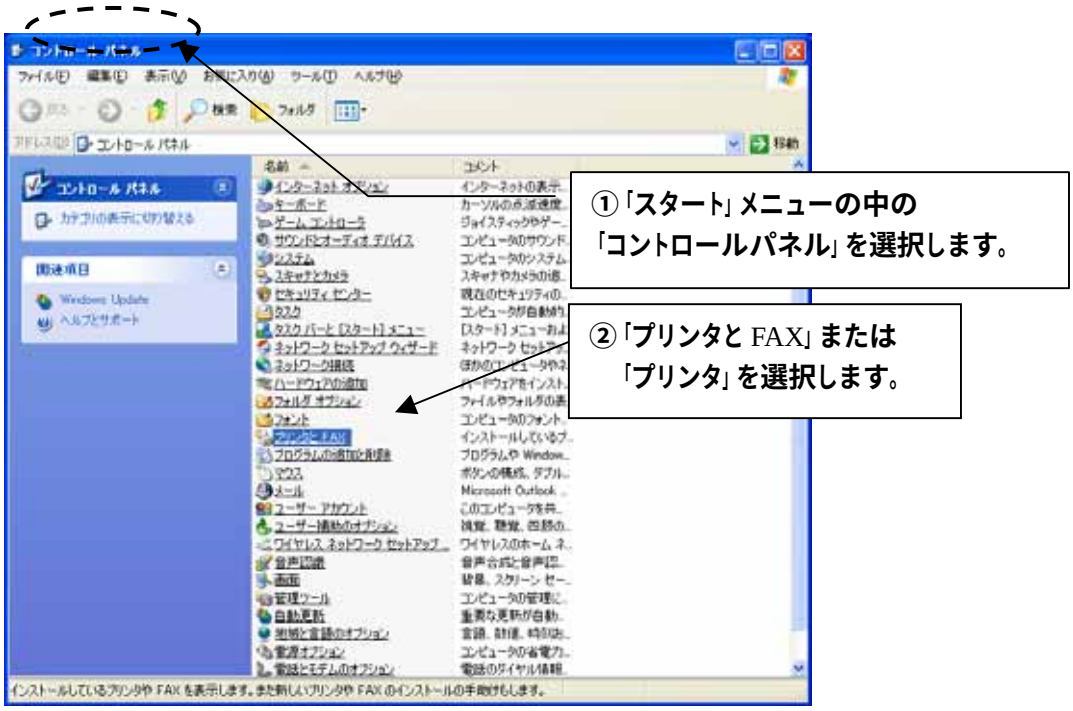
レポートを印刷するには 2 つの方法があります。1. ツールバーの アイコンをクリックすると、ソフトウェアは初期設定に従いレポート全体を印刷します。2. ファイルメニューの [Print] バーをクリックすると、下図に示す標準ウィンドウズの [印刷] ダイアログボックスが表示されます。印刷するプリンタを選択し、プリンタページ幅などの必要な設定を行います。[全て] は全内容を印刷し、[ページ範囲] は最初から終りまでのどのページでも印刷することができます。また、[選択範囲] は現在のページを印刷します。

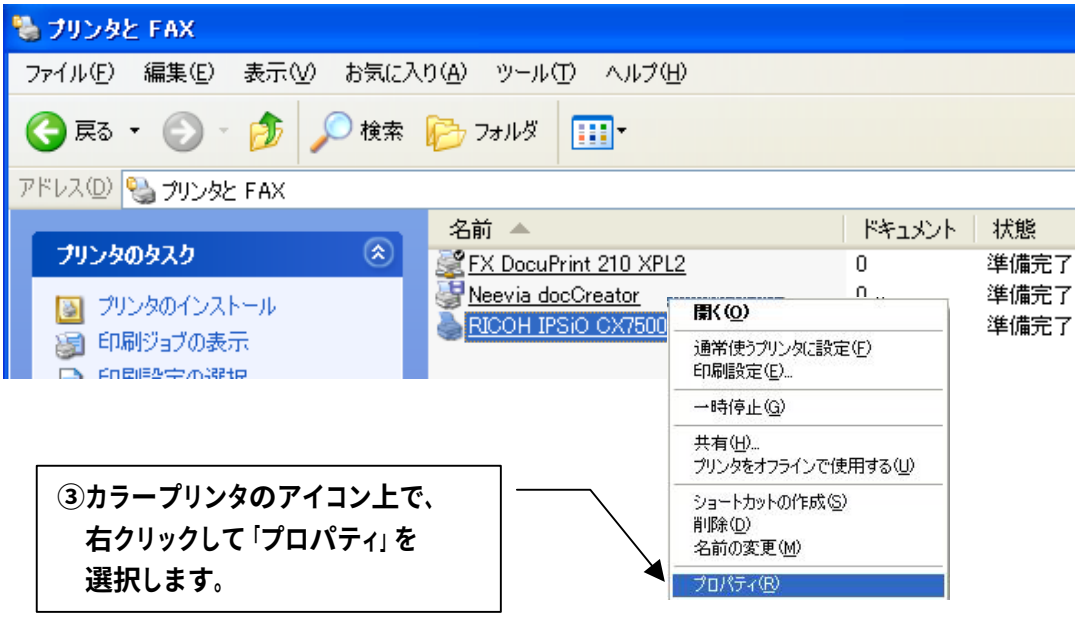
【参考】

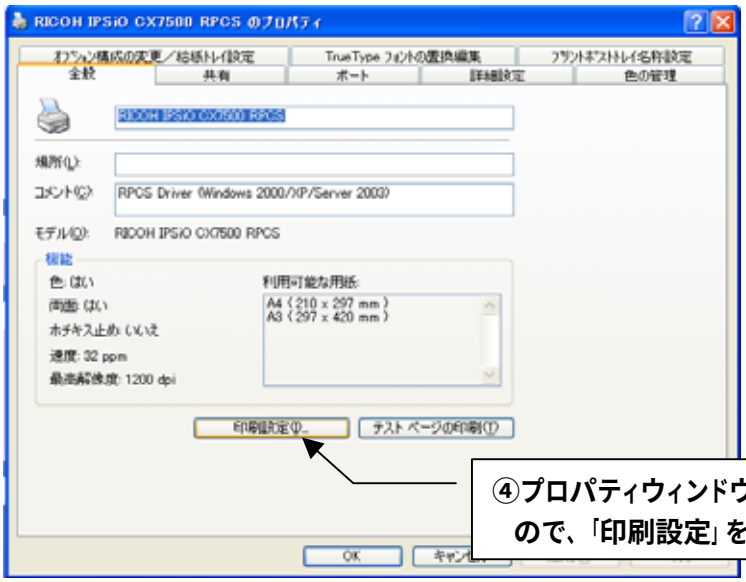
パソコンのディスプレイ (簡易プログラムの表示) とカラープリンタとの、異なる機器間の色合わせを行う、プリンタドライバの ICM 機能(Image Color Matching)が無効の場合、印刷結果が欠落する場合がございます。この場合は、お使いのカラープリンタの ICM 機能を有効にして頂くことで、印刷することができます。ICM 設定方法の参考は以下の通りです。

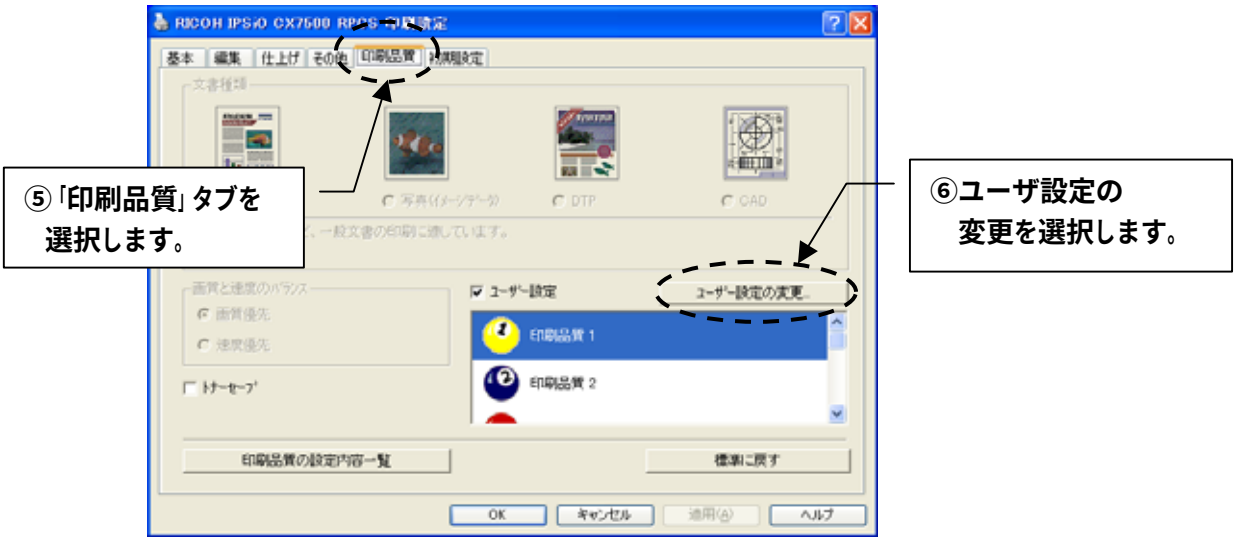
① 現在、お使いのカラープリンタの設定にて、ICM 機能を有効にします。
※ICM 機能の設定は、機器によって異なりますので以下の方法にて確認お願い致します。
A) 「コントロールパネル」-「プリンタとFAX」の対象プリンタのヘルプからICMを検索頂く。
B) プリンタの取扱説明書にて、ICM の設定方法をご参照頂く。
② 「ICM を使用する」ﾁｪｯｸし、ICM の方法を「ホストシステムによる ICM 処理」又は
③ [ホストで Image Color Matching を行う]を設定します。

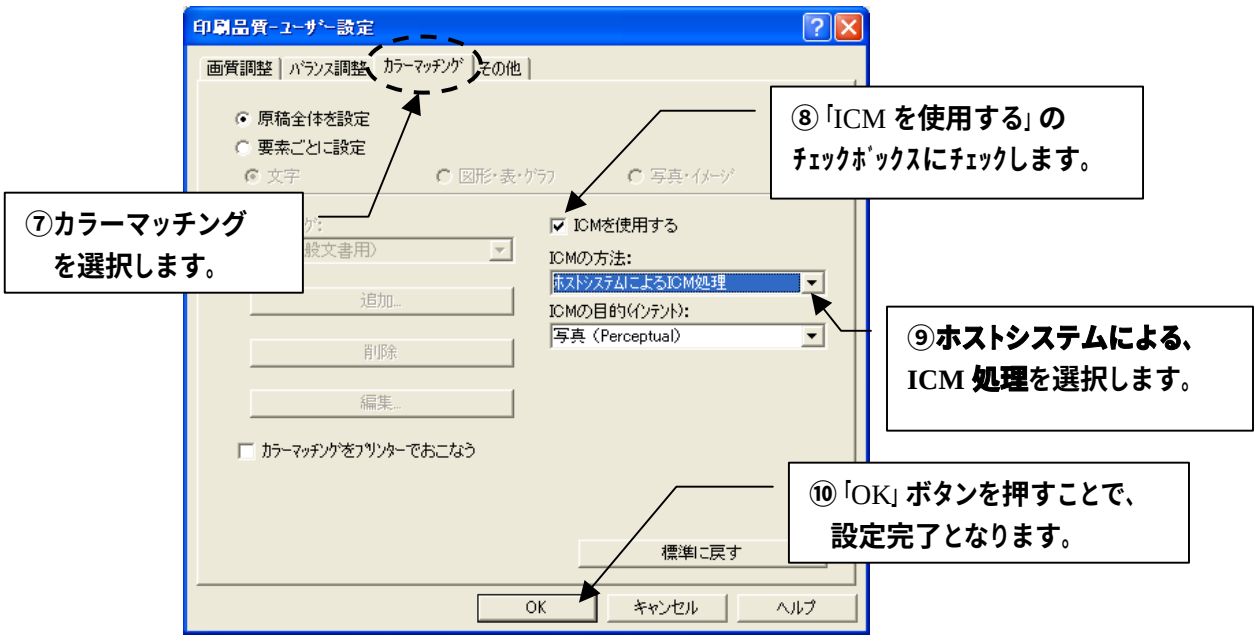
例) RICOH IPSiO CX7500 RPCS (メーカ：リコー) での、ICM 機能の設定方法となります。






RICOH IPSiO CX7500 RPCS のプロパティ
RPCS Driver (Windows 2000/XP/Server 2003)
RICOH IPSiO CX7500 RPCS
印刷設定(P)...
テスト ページの印刷(T)
OK
④プロパティウィンドウが表示されます
ので、「印刷設定」を選択します。


基本
編集
仕上げ
印刷品質
ユーザー設定
ユーザー設定の変更...
印刷品質 1
印刷品質 2
印刷品質の設定内容一覧
標準に戻す
OK
キャンセル
ヘルプ
⑤「印刷品質」タブを
選択します。
⑥ユーザ設定の
変更を選択します。


印刷品質-ユーザー設定
画質調整
バランス調整
カラーマッチング
その他
原稿全体を設定
要素ごとに設定
ICMを使用する
ICMの方法:
ホストシステムによるICM処理
ICMの目的(インテント):
写真 (Perceptual)
追加...
削除
編集...
カラーマッチングをプリンターでおこなう
標準に戻す
OK
キャンセル
ヘルプ
⑦カラーマッチング
を選択します。
⑧「ICM を使用する」の
チェックボックスにチェックします。
⑨ホストシステムによる、
ICM 処理を選択します。
⑩「OK」ボタンを押すことで、
設定完了となります。

9. ソフトウェアの終了

[File | Exit] を選択すると、確認ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックしてソフトウェアを終了してください。

第 4 章　詳しい操作説明

1. メインインタフェースの紹介

図 4-1 はこのソフトウェアのメインインタフェースで、メインメニュー、一般操作ツールボックス、ページ操作ツールバーと文書ツールバーがあります。ターゲットツールバーと分析ツールバーは左側に、垂直スクロールバーは右側に、水平バーとステータスバーは下側にあります。また、中央にある全領域は、レポートのページ作業エリアです。本ソフトウェアの最大解像度は、1024×768 です。

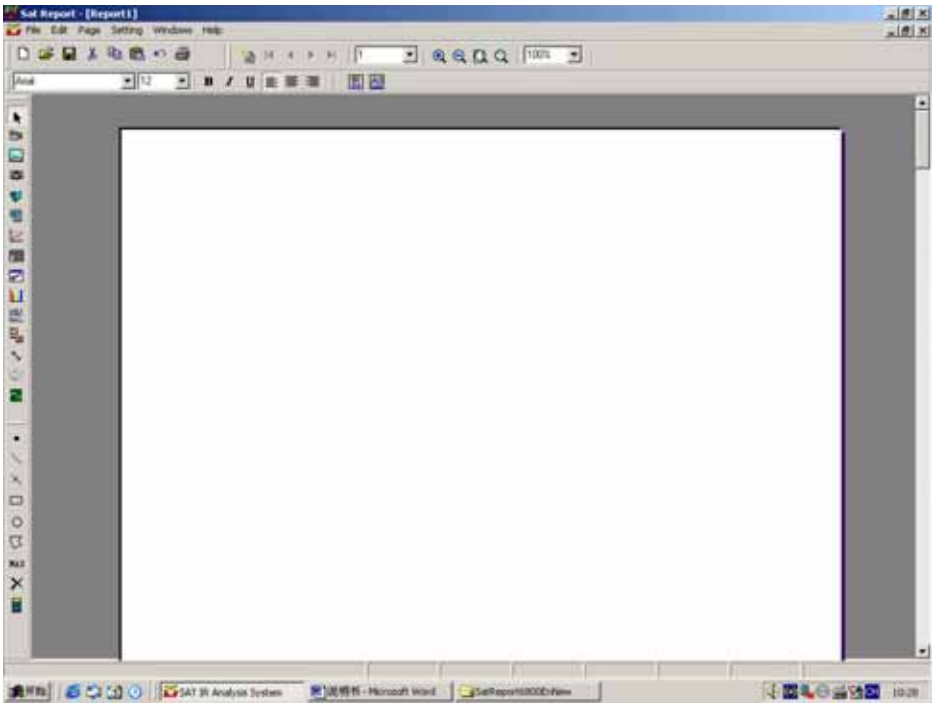


図　4-1

2. レポートのツール

レポートのツールには、赤外画像の解析、可視画像、テキストのフォーマット、テキスト入力、温度プロファイル、画像解析表 (出力テーブル) 、マーキングツールなどがあります。レポートのデザインは各ツールに基づいており、詳細設定もできます。

3. 赤外画像オブジェクトの操作

赤外画像オブジェクトは、赤外画像の表示、ポイントとラインと領域 (BOX、円) の分析、最高温度、最低温度、その他のデータ、画像調整、等温部、パレットの設定を行うために使用します。

(1) 赤外画像オブジェクト

左のツールバーにある赤外画像オブジェクトアイコン をクリックし、空き領域にマウスを移動してください。マウスが十字形になります。左マウスキーを押しながらマウスを移動し、オブジェクトの位置とサイズをあらわす四角形を変更してください。マウスを離すと新しい赤外画像オブジェクトが表示されます。図 4-2 に示すように、位置を調整する黒点が 8 つ付いた四角形は、赤外線のデフォルトファイルとは関連のない新しい赤外画像オブジェクトです（システムのメモリが可能な限り、複数の赤外画像オブジェクトを作成できます）。

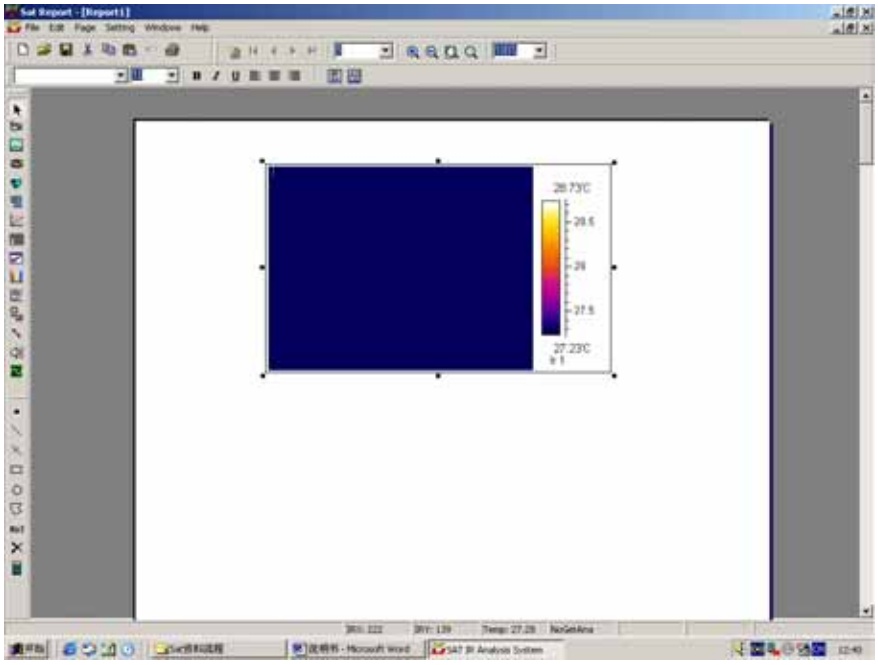


図　4-2

(2) 赤外画像の再生

対応する赤外画像を表示して分析するには、赤外画像ファイルを開く必要があります。赤外画像を開くには 2 つの方法があります。

① ダイアログボックスによる再生

赤外画像上にマウスを移動してマウスの右側をクリックすると、図 4-3 に示す処理メニューが表示されます。

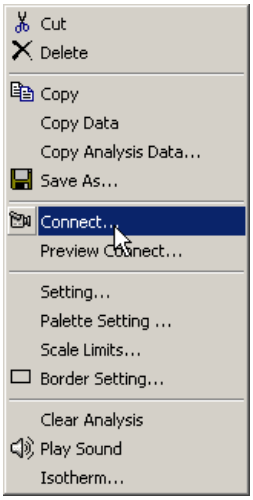


図　4-3

[Connect] をクリックすると図 4-4 に示す [ファイルを開く] ボックスが表示されます。パスを変更して赤外線ファイルを選択し、[開く] をクリックしてください。赤外画像ファイルの拡張子は「.Sat」または、「.GD2」です。

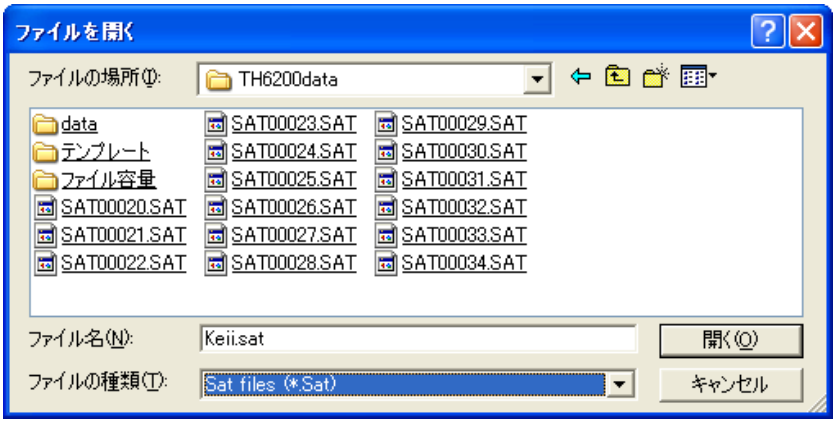


図　4-4

② プレビューを開いて再生

赤外画像上にマウスを移動して右クリックすると、サブメニューを表示されるので、図 4-5 に示すような [Preview Connect] を選択してください。

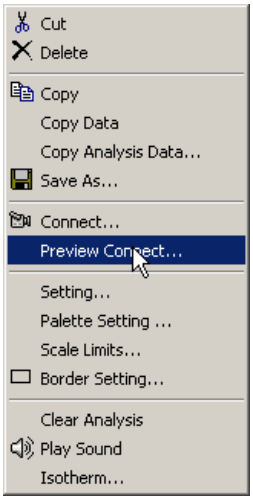


図　4-6

[Preview Connect…] をクリックすると、図 4-7 に示す Preview Connect の Ir view ウィンドウが表示されます。Ir view は、同時に数枚の赤外画像を見ることができます。リソースを管理しているウィンドウなどで、赤外線ファイルを選択して、プレビューフォームと同じディレクトリにある赤外線ファイルを全て表示することができます。一方、あるファイルを選択すると画像イメージが左下に表示されます。また、選択したファイルをファイル名の変更 (Rename)、コピー (Copy)、切り取り (Cut)、貼り付け (Paste)、削除 (Delete) などができます。

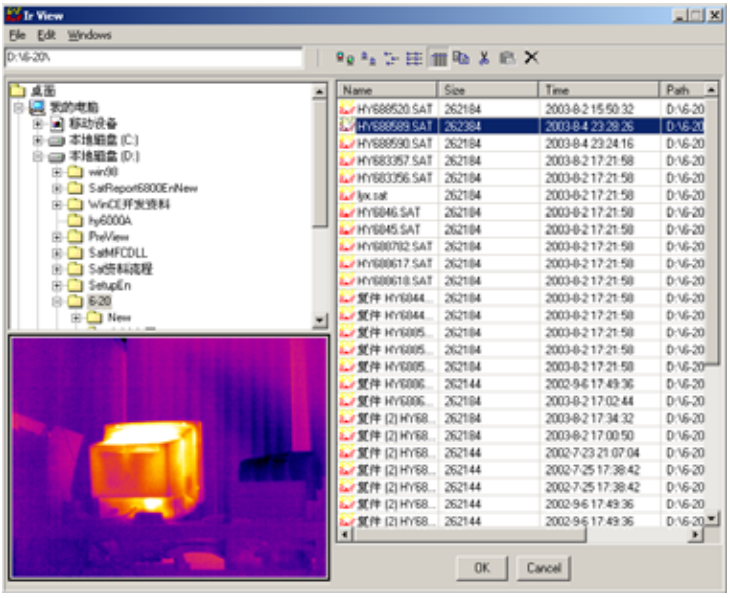


図　4-7

各アイコンをクリックすると、様々な方法でファイルを表示することができます。例えば、表示ツールバーの はプレビュー、 は拡大アイコン表示、 は縮小アイコン表示、 はリスト表示、 は詳細表示です。

赤外画像のファイルを選び [OK] ボタンをクリックしてください。すると、Ir view ウィンドウからレポートウィンドウに戻ります。図 4-8 は赤外画像が再生された状態になります。

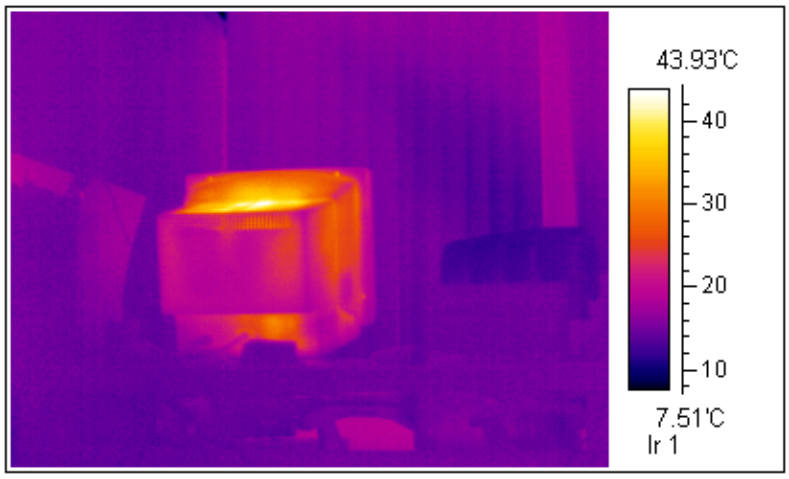


図　4-8

(3) パレットの設定

温度パレットに変更することができます。赤外画像にマウスを移動し、右クリックするとメニューが表示されます。そこで、[Palette Setting…] を選択し、図 4-9 に示す [パレット設定] ウィンドウに入ります。

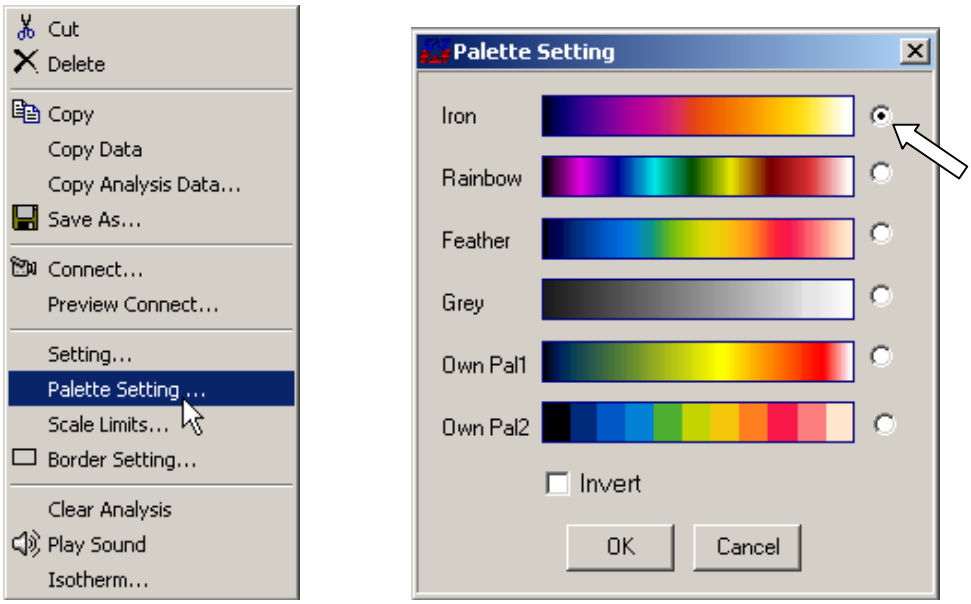


図 4-9

[Invert] を選択すると、反転色に設定できます。図 4-12 に示すように、対応する赤外線オブジェクトの変換画像がスクリーンに表示されます。[OK] をクリックして設定を保存するか、[キャンセル] をクリックしてデフォルトのパレットに復帰してください。

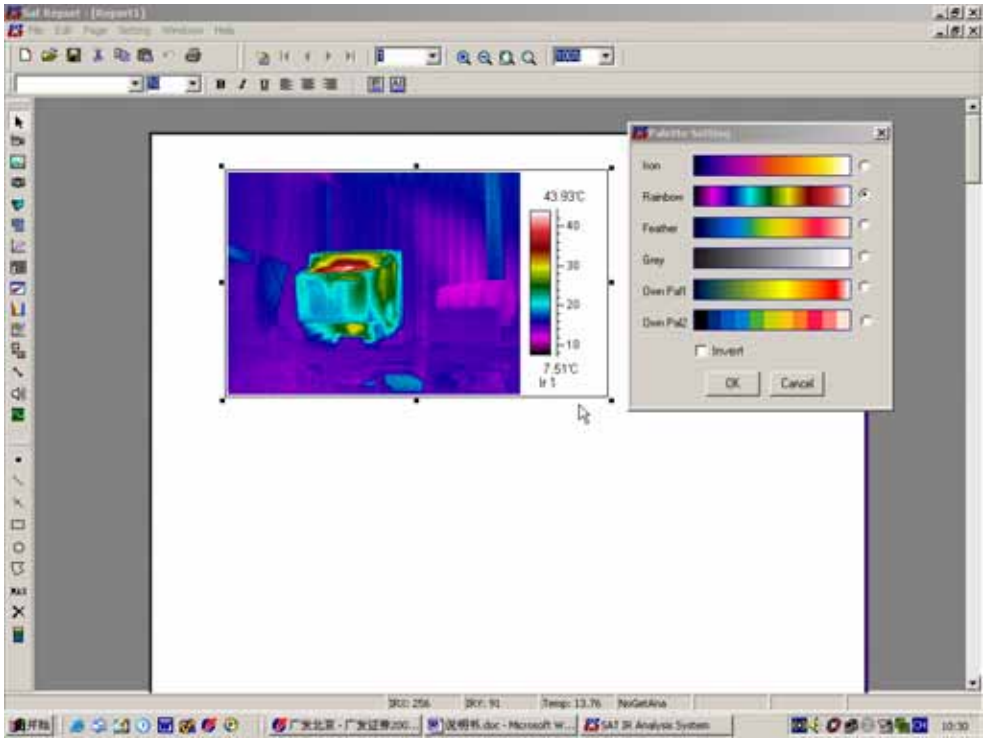


図 4-10

(4) 温度スケールの変更

赤外画像ごとの温度スケール (最高、最低温度) を調整し、最良の表示効果を得ることができます。マウスを赤外画像に移動し、右クリックでメニューを表示します。次に、[Scale Limits] を選択し、図 4-11 に示す [設定] ウィンドウに入ります。

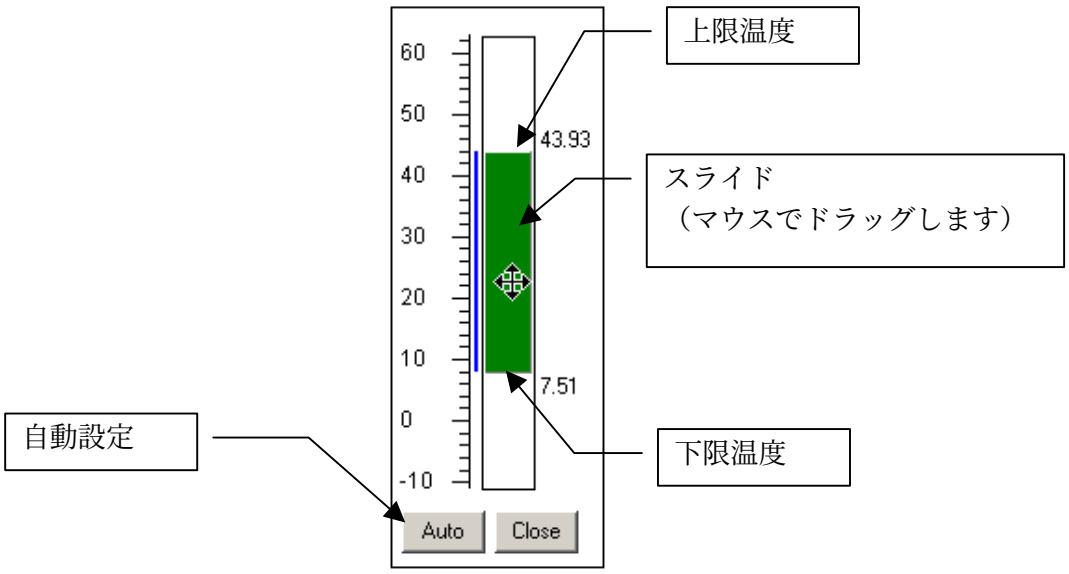


図　4-11

[設定] ウィンドウには、温度マーク、初期温度ライン、温度スライド、上限温度、下限温度と自動設定があります。温度スケールは、3 種類の方法で、温度スライドを移動して変更することができます。スライドの上側にマウスを移動し上下に移動し上限温度を変更します。また、スライドの下側にマウスを移動し下限温度を変更し、スライドの中央にマウスを移動し、温度差 (幅) を変えないようにしながら上限温度と下限温度を変更します。[Close] ボタンをクリックして設定を終了してください。

(5)　解析

① 図形の設定

赤外画像を再生した後、赤外線オブジェクトに対して図形を設定し、その画像の温度情報を取得できます。レポート画面の左にある分析ツールバーには以下のものがあります。

1.　ポイント

ポイント (点) の設定ができます。このポイントは、スポットの温度情報 (温度、座標値　etc) を取得することができます。このボタンをクリックし、ターゲットの赤外画像の分析するポイントにマウスを移動し (クロス形のマウス) 、左クリックでポイントを設定します。ポイント分析には数の制限がありません。このソフトウェアは、(P01、P02、P03…) のようにポイントをマークします。

2.　ライン、　ラインカーソル

ライン (線) の設定ができます。このラインは、線上の温度情報 (最高温度、最低温度、平均温度、座標値　etc) を取得することができます。このボタンをクリックし、ターゲットの赤外画像のライン開始点にマウスを移動してください (クロス形のマウス) 。次に、左キーを押しながら、画像上で線を引き、適当なところでマウスを離してください。マウスをクリックした位置からマウスを離したところまでラインが引けます。ライン設定には数の制限がありません。このソフトウェアは、(L01、L02、L03…) のようにラインをマークします。ラインにカーソルを表示するには、ボタンをクリックします。ターゲットのラインにマウスを移動し、マウスをクリックしてジョブを終了してください。

3. スクエア

スクエア (BOX) の設定ができます。このスクエアは、四角内の温度情報 (最高温度、最低温度、平均温度、座標値　etc) を取得することができます。このボタンをクリックし、ターゲットの赤外画像にマウスを移動し、スクエア分析の開始位置を決定してください (クロス形のマウス)。左キーを押しながら、マウスを移動して画像上にスクエアを描いてください。右側にマウスを移動して離すと、開始点と終了点を指定したダイアログで、スクエア分析を行います。スクエア分析には数の制限がありません。このソフトウェアは、(L01、L02、L03…) のようにラインをマークします。

4. サークル

サークル (円) の設定ができます。このサークルは、円内の温度情報 (最高温度、最低温度、平均温度、座標値　etc) を取得することができます。このボタンをクリックし、ターゲットの赤外画像にマウスを移動しサークル分析の中心を決定してください (クロス形のマウス)。左キーを押しながら、マウスを移動して画像上にサークルを描いてください。次にマウスを右側で離すとサークル分析をします。サークルの中心はクリックダウンした点で、サークルの開始点と終了点の半径に相当します。サークル分析には数の制限がありません。このソフトウェアは、(C01、C02、C03…) のようにラインをマークします。

5. MAX 最大温度 (画像全体)

最高温度検出のアイコンです。このボタンをクリックすると、選択した赤外画像の最高温度、にポイントが自動的に設定されます。

図 4-12 に全分析を行った赤外画像を示します。

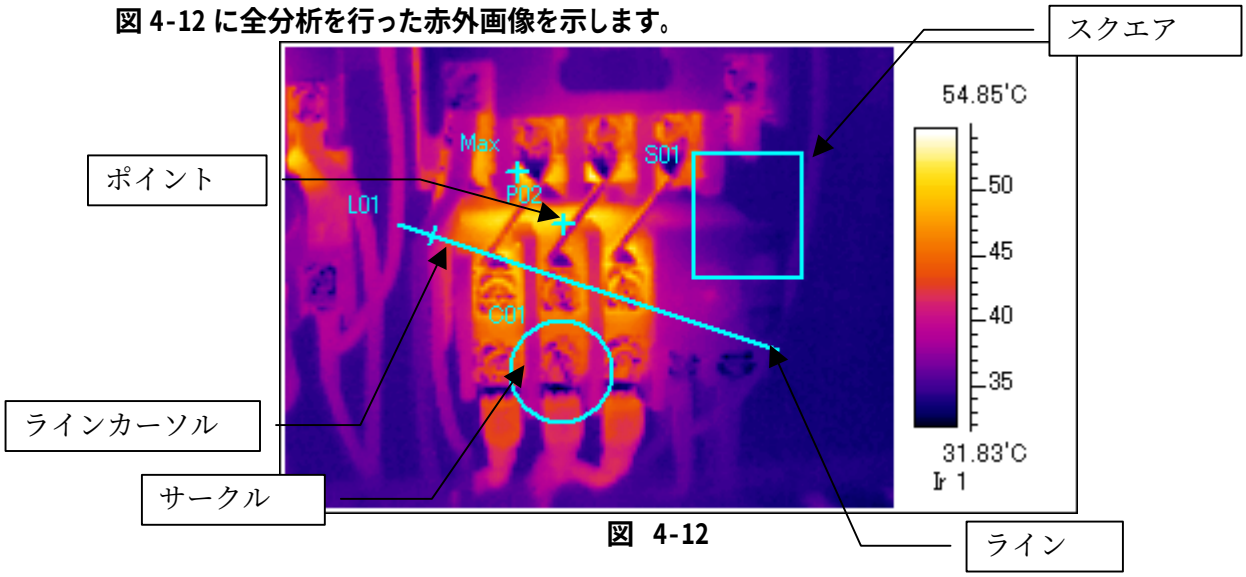


図　4-12

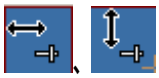
② 設定図形の変更

赤外線オブジェクトに設定した図形を変更するには、左のツールバーにあるボタンを押してオブジェクトを選択します (または　8　つの黒く小さい立方体でオブジェクトを囲み、左クリックで選択)。赤外画像にマウスを移動し、どの種類の変更であるかをマウスアイコンの形状から判断してください。左キーを押しながらマウスを移動して変更してください。分析を変更しているときのマウスアイコンは以下のように変わります。

ポイントの移動

ライン、全ラインの移動

ラインの変更、センタを中心として他のポイントを回転または拡大

 ラインカーソルの移動

スクエアの移動。サイズ変更なしで、スクエア全体を移動

矢印の方向にスクエアのサイズを変更

サイズ変更なしでサークル全体を移動

矢印の方向にサークルのサイズを変更

解析が変更されると、全温度データと関連データは再演算されます。

③ 図形の削除

図形を変更するには、左のツールバーにある ボタンを押します。赤外画像にマウスを移動し、マウスアイコンの変更からどの図形を削除するか、また対象の処理を決定してください。マウスを左クリックすると対象とする図形が削除されます。以下に図形を削除するときの、各々のマウスの形を示します。

ポイント削除、 ライン削除、 ラインカーソル削除、 サークル削除、 スクエア削除、図形を削除すると、システムは全図形のマークの位置を自動で調整し、削除した図形に関係するデータを全て変更します。

④ 図形の消去

赤外画像にマウスを移動し、右クリックで処理メニューを表示してください。次に、[Clear Analysis]を選択して赤外線オブジェクトの全図形を削除してください。このとき、このシステムは図形にリンクしていたデータを自動的に変更します。

(6)　赤外線オブジェクトパラメータの設定

このソフトウェアでは、ユーザーが対応する赤外線オブジェクトのパラメータ、例えば、放射量、温度、距離、相対湿度など、全て設定することができます。さらに、個々の分析のパラメータ、例えば、放射量、距離、表示タイプなどの設定もできます。マウスを右クリックすると赤外線処理メニューが表示され、[Setting] を選択すると図 4-13 に示す [Parameter Setup] ウィンドウに入ります。このウィンドウは IR と Analysis の 2 つのページがあります。

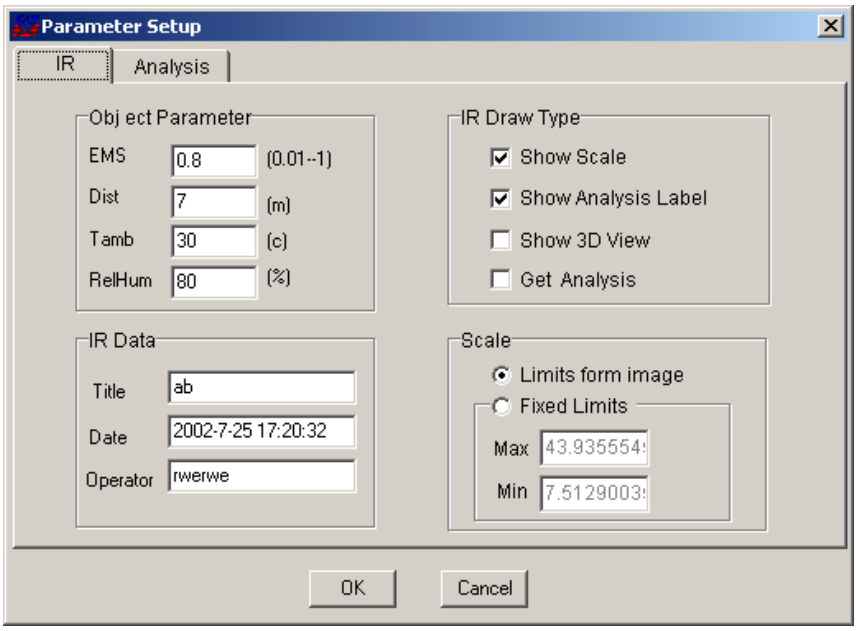


図 4-13

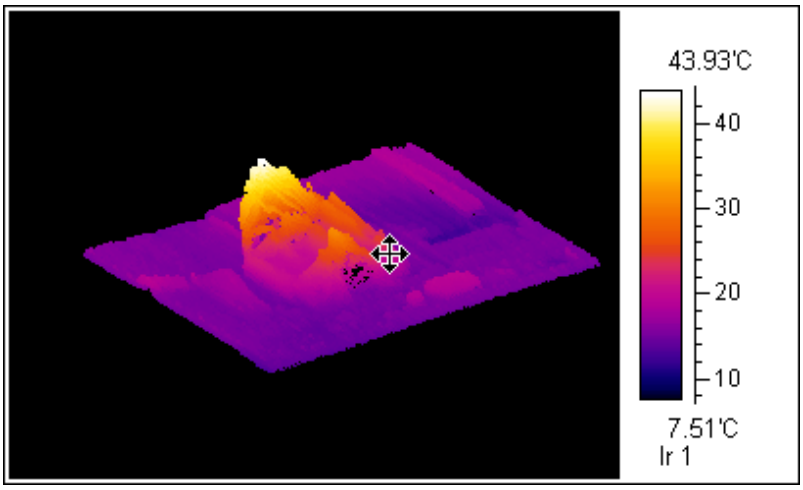
① 赤外画像のパラメータ設定

IR のページでは、赤外画像全体のパラメータを設定します。個別設定ではない場合、IR 画像を変更すると分析のパラメータも変更されます。しかし、独立パラメータはそのまま変更されません。このページは 4 つの設定から構成されています。

A：温度パラメータ設定：放射量 (EMS)、距離 (Dist)、温度 (Tamb)、相対湿度 (RelHum)

B：赤外線データ：タイトル (Title)、データ (Date)、操作 (Operator)

C：IR 描画タイプ：スケール (Show Scale)、分析ラベル (Show Analysis Label)、3D ビューの表示 (Show 3D View)



3D 表示

D：温度スケールの表示(Scale)

② 分析パラメータの設定

［Parameter Setup］ウィンドウの「Analysis」ページをクリックして、図 4-14 に示すように、Analysis の全パラメータを設定してください。

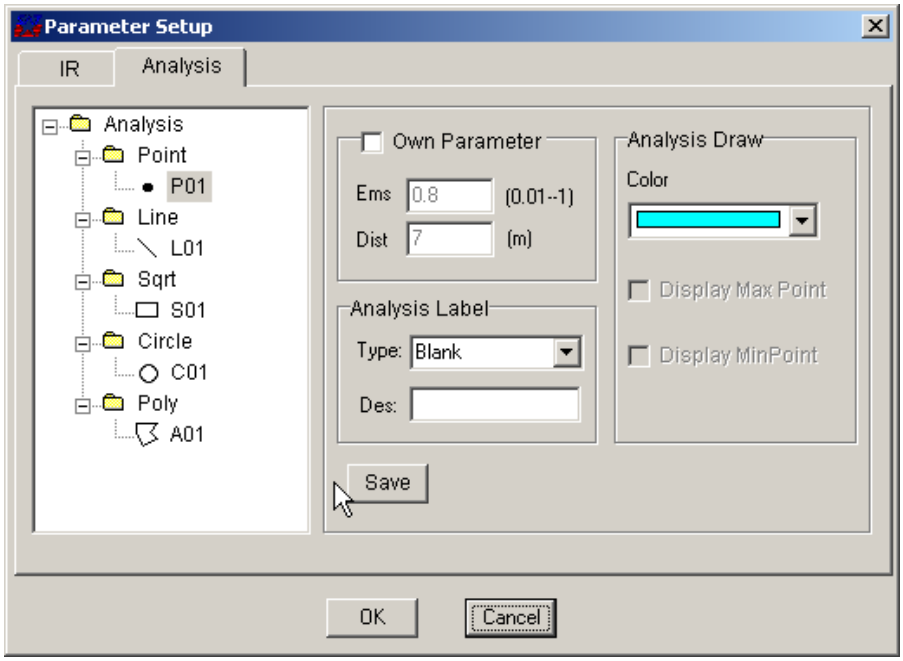


図 4-14

左のツリーから設定したい対象を選択します。［Own Parameter］ボックスを押し、Own Parameter で分析を変更してください。Analysis Label の Type プルダウンボックスから温度値表示タイプを決定することができます。プルダウンの中の「Blank」と「Temperature」はポイント分析に利用でき、「Blank」、「Max Temp」、「Min Temp」、「Average Temp」は、ライン分析とスクエア分析とサークル分析に利用できます。Analysis Draw は赤外画像の表示色を決定し、また最高(Display Max Point)、最低温度(Display Min Point)を表示するか否かを決定します。［Save］ボタンを押して、設定に反映してください。

③ パラメータ設定の結果

全ての設定が終了しましたら、［OK］をクリックして設定ウィンドウを終了してください。このシステムは赤外画像オブジェクトの全ての温度データを再設定し、関係するパラメータ表と解析結果表をアップデートします。図 4-15 に示すように赤外画像の表示が変更されます。「.」は実平均温度、「<」は上限以上の温度を意味し、「>」は下限以下の温度を意味しています。

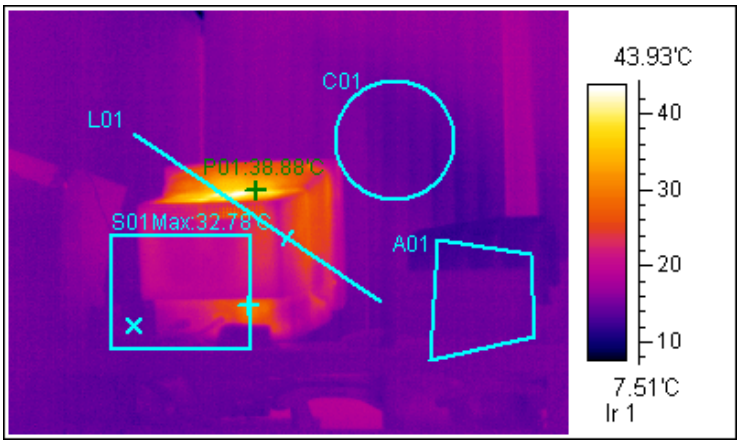


図 4-15

(7)　等温帯表示 (Istherm)

① 等温帯表示の作成

　等温帯表示は、赤外画像の定義温度範囲 (10°C～30°C) 内の同じ色となる全点をマークします。赤外画像にマウスを移動し、右クリックで処理メニューを表示して [Isotherm…] を選択します。図 4-16 を参照ください。

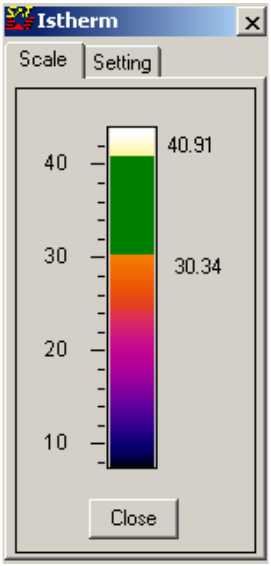


図　4-16

　スケールは等温帯分析の温度スケールを調整に使用します。調整は、主に温度スライドを移動し、サイズを変更して行います。温度スライドに沿ってマウスを移動し、変換します。
マウスがスライドの中央にある場合、左クリックでマウスを垂直に移動してください。スライド全体が垂直に移動し、高低温ラベルは温度変化に対応して表示します。

　マウスがスライドの上側にある場合、左クリックでマウスを垂直に移動してください。高温ラベルが対応する温度変化を表示している間、スライドの上部の位置が変化します。

　マウスがスライドの下側にある場合、左クリックでマウスを垂直に移動してください。低温ラベルが対応する温度変化を表示している間、スライドの下部の位置が変化します。

　温度スライドを移動している間、対応する赤外画像が変化します。正しい結果が得られましたら、[Close] をクリックし終了してください。変換した赤外画像は図 4-17 のようになります。

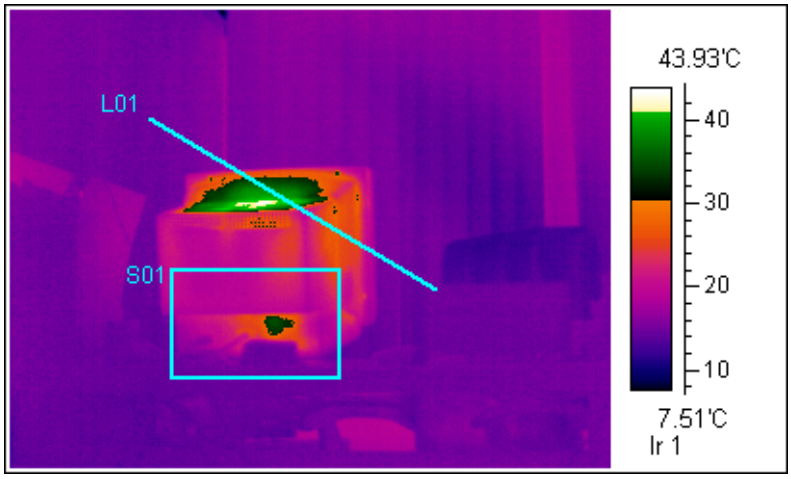
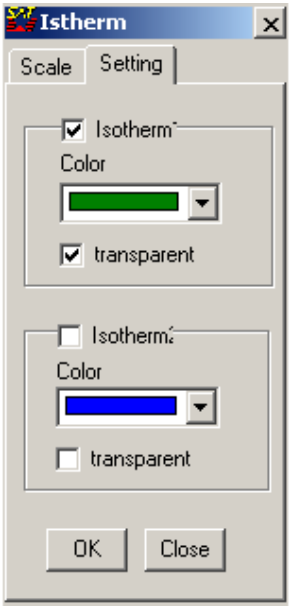


図　4-17

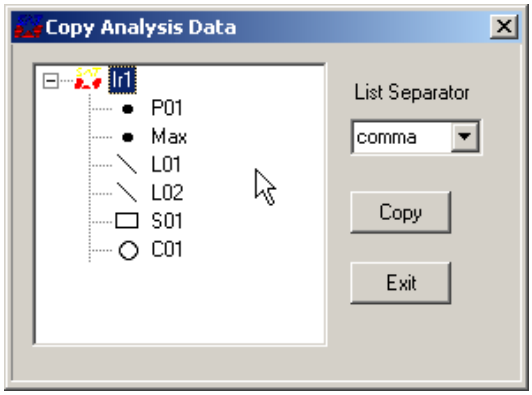
② 等温帯表示の設定

等温帯表示に複数のスケール (2 つのみ) を追加することができます。また、等温帯表示の色と透かしを設定するか否か (赤、青、緑のみ有効、黒と白は無効) を決定できます。設定が終了しましたら [OK] ボタンをクリックしてください。等温帯 1 または等温帯 2 の 2 つのチェックボックスからチェックを外すと、等温帯表示を解除できます。



(8)　分析データのコピー

このソフトウェアは解析温度データをクリップボードにコピーして、他のソフトウェアにコピーすることができます。マウスを右クリックすると処理メニューが表示され、[Copy Analysis data] を選択すると下図のウィンドウが表示されます。



対象とするデータを選択して、区切り記号 (コンマ、スペース、エンター、タブなど) をプルダウンから選択し、[Copy] ボタンをクリックしてください。

2. 可視画像オブジェクト

可視画像オブジェクトは、「BMP」と「JPG」形式の画像ファイルを表示します。赤外画像と可視画像を組み合わせると、レポートが明晰で洗練されたものになります。

左のツールバーにある [可視画像] ボタンをクリックし、そのページの空白領域にマウスを移動します。そこで、マウスはクロスとなります。マウスの左キーを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置とサイズを表すスクエアを変えます。マウスを離し、新しい可視画像オブジェクトをそのページに作成します (システムメモリの範囲で、複数の可視画像オブジェクトを作成できます)。マウスを新しい可視画像オブジェクトに移動し、右クリックすると可視画像処理メニューが現

われます。次に [Open] を選択すると標準ウィンドウズ画像オープンボックスが表示されます。画像ファイルを選択し [開く] をクリックするとそのページに画像が表示されます。図 4-18 を参照ください。

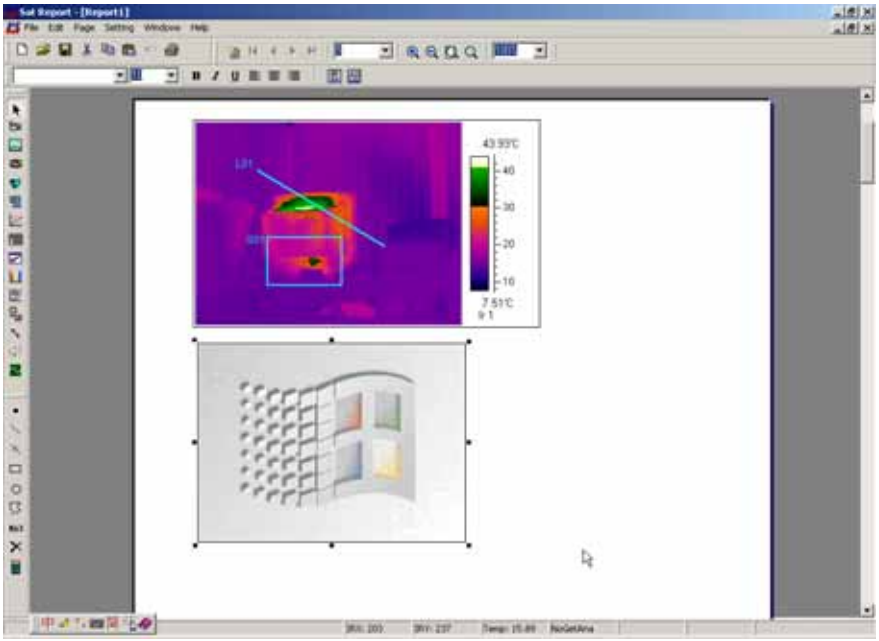
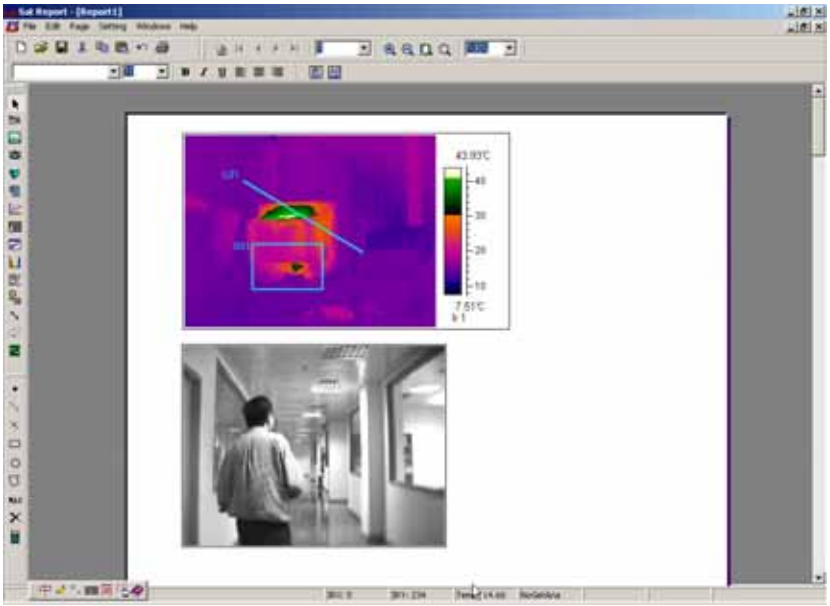


図 4-18



3. テキスト形式オブジェクト

テキスト形式オブジェクトを設定し、文字を入力することができます。左のツールバーにある [テキスト] ボタン をクリックして、ページの空白領域にマウスを移動してください。マウスがクロスとなりますので、マウスの左キーを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置とサイズを表すスクエアを変えてください。マウスを離して、新しいテキストオブジェクトをそのページに作成してください (システムメモリの許容範囲で、複数のテキストオブジェクトを作成できます) 。テキストオブジェクトに直接コンテンツを入力して編集できます。

① フォント変換

フォント変更したいコンテンツを選択し、マウスを右クリックでテキスト処理メニューを表示し、[Font] を選択すると、標準ウィンドウズの [フォント設定] ボックスが表示されます。または、メインインタフェースの上部の文書処理バーにあるプルダウンボックスのフォントサイズ／タイプ、太字、斜体、アンダーラインボタンを選択しても同様にフォント変換できます。

② 配置設定

配置変更したいコンテンツを選択し、マウスを右クリックでテキスト処理メニューを表示してください。次に [Align] を選択し、配置変更したいところを選択してください。または、メインインタフェースの上部の文書処理バーにある [配置] ボタンでも同様に設定できます。

③ コピーと貼り付け

テキスト形式オブジェクトはクリップボードからテキスト形式を貼り付けることができます。最初に、ワードからテキストをコピーし、次にマウスを右クリックするとテキスト処理メニューが表示されますので、[Paste] を選択してください。クリップボードのテキストオブジェクトのコンテンツをコピーすることもできます。コピーするコンテンツを選択し、マウスを右クリックするとテキスト処理メニューが表示されますので、[Copy] を選択してください。

6. 結果表 (出力テーブル)

結果表は赤外線オブジェクトの解析結果を表示します。左のツールバーにある [Result Table] ボタン をクリックし、そのページの空白領域にマウスを移動してください。マウスがクロスとなります。マウスの左キーを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置とサイズを表すスクエアを変えます。マウスを離して、新しい結果表をそのページに作成してください。

解析結果を表示するために、対応する赤外線オブジェクト、データタイプに関連付ける必要があります。対象とする結果表にマウスを移動して右クリックするとメニューが表示されます。次に、[Connect] を選択して、図 4-19 に示す [Content] ウィンドウに入ります。

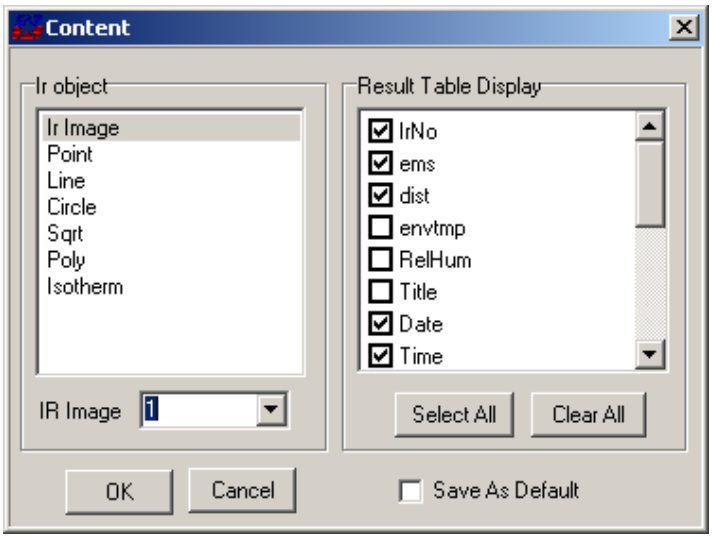


図　4-19

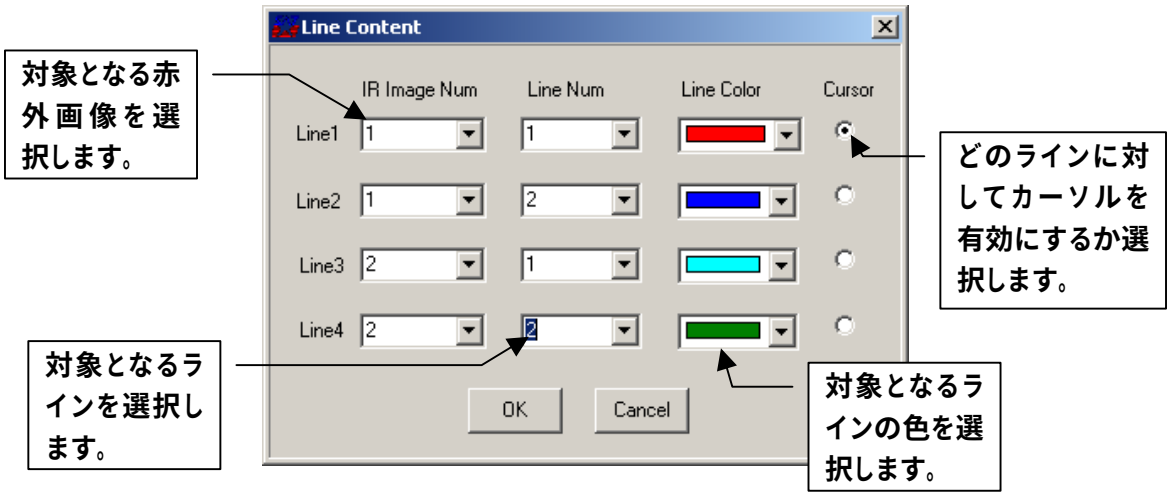
利用可能なデータタイプが右のコラムに表示されているときは、左の解析オブジェクトを選択してください。対応するデータタイプと赤外線オブジェクト番号をプルダウンより選択し、[OK] をクリックして終了してください。下図に示すような、対応解析表がメインインタフェースに表示されます。

IR Info	Value
IrNo	1
ems	0.8
dist	7
Date	2002-7-25
Time	17:20:32
Label	**Value**
P01:Temp	35.56
Max:Temp	43.93
L01:Max	40.29
L01:Min	15.17
L01:Avg	22.52
L01:Cursor	---
C01:Max	32.72
C01:Min	13.11
C01:Avg	17.19
S01:Max	32.78
S01:Min	14.7
S01:Avg	20.73
A01:Max	43.93
A01:Min	11.87
A01:Avg	19.56
ISO1:Upper	40.91
ISO1:Lower	30.34
ISO1:Width	10.56

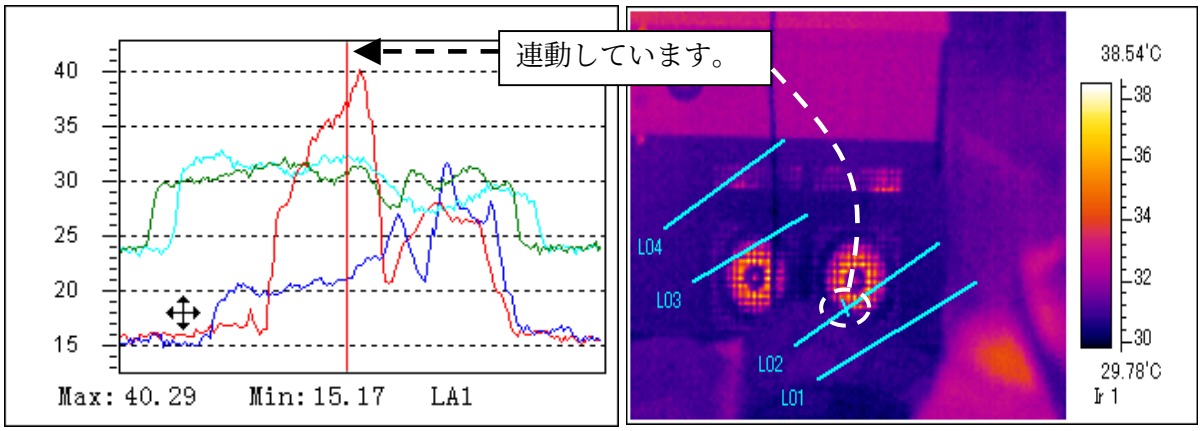
7. 温度プロファイル

温度プロファイルは、赤外画像にラインを設定し、そのライン上の温度データをグラフ化したものです。左のツールバーにある [Line Analysis Tool] ボタン をクリックして、そのページの空白領域にマウスを移動してください。マウスがクロスとなります。マウスの左キーを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置とサイズを表すスクエアを変えます。マウスを離して、新しい温度プロファイルオブジェクトをそのページに作成してください。

新しい温度プロファイルオブジェクトに結果を表示するためには、対応する赤外オブジェクトに関連付ける必要があります。対応する温度プロファイルオブジェクトにマウスを移動し、右クリックでメニューを表示し、[Connect] を選択して [Line Content] ウィンドウに入ってください。下の図を参照ください。

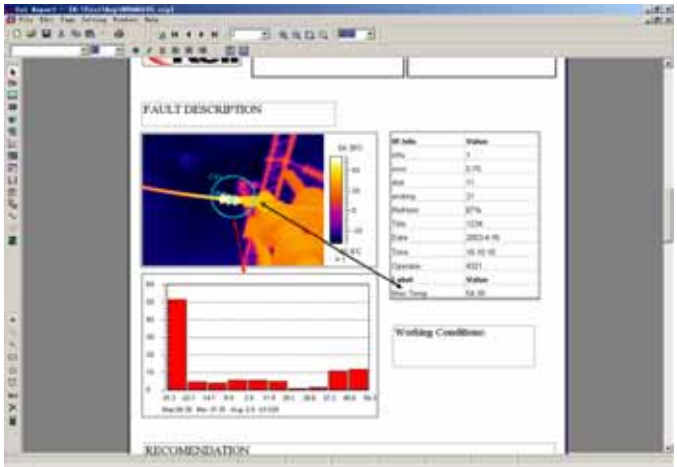


温度プロファイルオブジェクトは、同時に最大 4 ライン表示することができます。ラインの色、ラインカーソルの選択、赤外画像番号、ライン番号を選択することができます。設定終了した場合は、[OK] をクリックしてください。メインのインタフェースには、対応するライン解析の結果を表示します。下方に最大、最小温度とライン分析番号を示します。



9.マーカーオブジェクトの表示

レポート上に矢印のマーカーを設定することができます。左のツールバーに表示されているオブジェクトボタン↘をクリックし、そのページの空白領域にマウスを移動してください。マウスがクロスとなります。マウスの左キーを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置とサイズを表しているラインを変換してください。マウスを離して、新しい表示オブジェクトをそのページに作成してください。ユーザーは、下図に示すように、幅と色を設定することができます。



10. 一般オブジェクト操作

① オブジェクトの選択

左ツールバーの ボタンをクリックしてターゲットオブジェクトをクリックしてください。8 つの小さく黒い点がその周りに現われると選択されたことになります。

② オブジェクトの移動

オブジェクトは全て、そのページ内のどこにでも移動することができます。オブジェクトを選択して、左キーを押しながらマウスを移動してください。このソフトウェアは画面にオブジェクトの現在位置とスクエアを描きます。オブジェクトが右側にある場合はマウスを離してください。

③ オブジェクトサイズの変更

オブジェクトを選択して、オブジェクトのサイズと向きを制御している小さな点をクリックし、マウスを移動してください。このソフトウェアは、画面に現在のオブジェクトサイズを表示したスクエアを描画します。設定が終りましたら、マウスを離してください。

④ コピー

この機能は、オブジェクトとコンテンツを画像またはテキスト形式でクリップボードにコピーします。オブジェクトを選択してマウスを右クリックすると、処理メニューが表示されるので、[Copy] を選択してください。メインインタフェースの [Edit] メニューから [Copy] を選択することもできます。

⑤ 切り取りと貼り付け

切り取りと貼り付けは主に、あるページから別のページにオブジェクトを移動するために使用します。マウスを右クリックすると処理メニューが表示されるので、[Cut] または [Paste] を選択するだけで動作します。

⑥ 削除

この機能は、オブジェクトを削除します。マウスを右クリックすると処理メニューが表示されるので、[Delete] を選択するか、メインインタフェースの [Edit] メニューから同じ機能を選択するだけで動作します。

⑦ オブジェクトの復帰

この機能は、誤って削除してしまったオブジェクト (画像、結果表、温度プロファイル等) を、削除前の状態に復帰させる機能です。但し、直前に発生した削除処理のみ対象となりますので、ご注意ください。

11. ページ操作

新しいページを作成して、複数のページを同時操作することができます。

① ページの作成

ページツールバーの [New Page] ボタン をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されますので、[OK] を選択してください。または、ページの空白内でマウスを右クリックし、[New Page] または、メインインタフェースのメニューの [Page] を選択しても操作できます。

② ページの削除

ページの空白上でマウスを右クリックして [Delete Page] を選択してください。または、メインインタフェースメニューの [Page] から [Delete Page] を選択しても操作できます。

③ ページの移動

任意のページに移動ができます。任意のページに移動するには、ツールバーにある [ページ移動ボタン] またはプルダウンより選択するか、メインメニューの [Page|Go to] から操作することができます。

　最初のページ

　前のページ

　次のページ

　最後のページ

選択ページへの切り替え

④ ページの拡大/縮小

ページの拡大、縮小がツールバー上のボタン又は、[Page]メニューから設定できます。

　縮小

　拡大

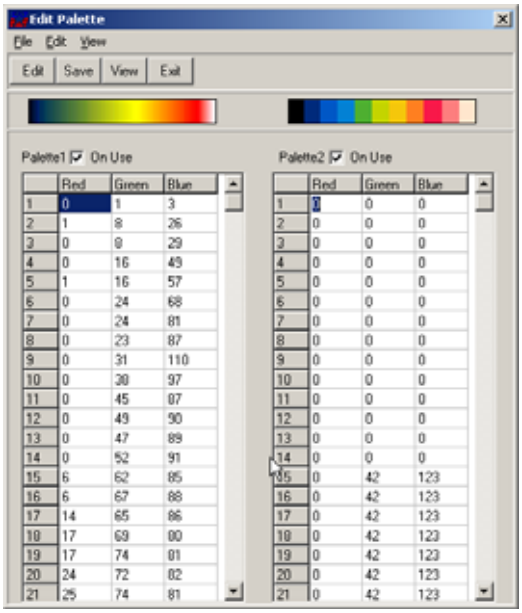
　全ページ

　100%

パーセント

A.　ユーザー定義パレット

パレット管理を使い、複数のユーザーが各々のパレットを定義して最良の表示効果を得ることができます。[設定／編集パレット] を選択し下図に示すパレット管理に入ってください。



1.　ユーザー定義のパレット管理構成

パレット管理は、メニュー、機能キー、選択肢、プレビューバーとパレット 1 とパレット 2 の RGB エディタで構成されている。

2.　パレット管理の手引き

①　パレットの編集

ユーザーは、[編集] ボタンを押すまで、3 原色を編集することができません。このソフトウェアのパレットは 163 色あります。RGB エディタで R、G、B に対応する値を入力し、[保存] を押し、設定を保存してください。[ビュー] ボタンを押すと、パレット 1、2 のカラープレビューバーで各々に対応するパレットを表示することがきます。このシステムでユーザー定義パレットを適用するかを決定してください。

②　ユーザー定義パレットの読み込みと書き出し

パレット管理は、ユーザー定義パレットの読み込み、書き出しをすることができます。[ファイル／書き出し] を選択すると、標準ウィンドウズの [ファイル保存] が表示されます。保存ディレクトリを選択し、ファイル名を入力してから、[はい] をクリックしてください。書き出しパレットの拡張子は、.pal です。読み込み操作も同様です。

第 5 章　仕様

本ソフトウェアは以下の仕様で動作致します。

OS : Widows Xp/2000/ME (NT は仕様対象外です)

CPU : Pentium Ⅲ 450kHz 以上

HDD : 100MB 以上の空き容量

RAM : 128MB 以上

※MS-WORD 形式で保存する場合は、MS-WORD が既にｲﾝｽﾄｰﾙされている必要があります。

第 6 章　その他

1.本ソフトは、Guangzhou SAT Infrared の著作物です。本ソフトの一部または全部を無断で複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

2.本ソフトの内容については、改良のため将来予告なく変更することがあります。

第 7 章　お問い合わせ先

NEC三栄株式会社

ホームページは・・・・・・http://www.necsan-ei.co.jp/

〒190-8537　東京都立川市曙町1丁目25番12号

TEL 042-522-0526　　FAX.042-522-0540

＜お客様相談窓口＞

フリーダイヤルにより全国から無料でお問い合わせできます

0120-338-860 受付時間 ： 平日 AM9:00～PM5:00

簡易レポート作成プログラム

(SAT Report 2003)

取扱説明書

履　歴

2004 年　　10 月　　初版　発行

2005 年　　9 月　　2版　発行

発行元　NEC 三栄株式会社